

先日、春一番のような風が吹き、外の陽だまりで、ござを敷いて子どもたちはお弁当を広げました。春の匂いが漂いました。まるで春がフライングでやってきたような感じでした。そして、雨降り。例年ならば、真っ白な世界に煙突から白い煙が上がる大地なのに、土手や土が見えて、白黒の世界になっています。

年末年始の雪の貯金のお蔭で、まだ雪遊びがたっぷり楽しめる子ども達。雪遊びは、全て砂場の世界と言った感じで、特に傾斜にある雪は、そこにいるだけで、遊びが無限に広がります。どんな遊具もテーマパークもかなわない魅力があります。こんな中で、子どもたちは、連日、雪遊び、そりすべり、クロカン、週末は、アルプスキーなど、雪国の恩恵をたっぷり受けています。おかげで、例年通り、雪焼けがしっかり進んでいます。

外遊びという外へ向かうエネルギーが大きい分、内面へ向かう内的なエネルギーである室内遊びも、同じくパワーアップされて調和が取れています。リリアン、指編み、そして、3学期から始まった刺繍、料理やスープづくりなど、本当に器用に集中して盛り上がっています。時代は変わっても、子どもたちの外と内へのバランスは、変わらないものです。

外でびっしょりになるまで雪遊びをして、くたくたに疲れてコタツに潜り込み、お尻を乾かしながら本を読んでいた小さい頃となんら変わらない生活が、大地にはあります。大きなコタツにミカンやリンゴでもあれば最高です。今度は、こんな空間を作ろうかと考えています。(先日に、新聞に、ミカンの消費量が激減している。それは、住居の洋風化と高気密の暖かい家のお蔭で、コタツが激変しているのと関係があるとありました。時代に抵抗する大地としては、やはりコタツにミカンですね)



【みずぐるま】

1月14日(土)ようやく、新しい建物が正式引き渡しとなりました。約1ヵ月遅れでしたが、これはこちらが思いつきのデザイン変更で工事が複雑になったせいですが、でもお蔭で満足のいく空間ができました。正式引き渡しの前に、12月下旬から使い始めていたのですから、面白いですね。

昨年12月21日にスキーで靱帯を痛め、全治1ヵ月などと言われ、そんなはずはないと最後の追い込み工事で酷使したせいか、診断通り、まだ回復は60%程度、おまけにスキーをしているせいか、回復は思わしくなく、春の暖かさを待つしかないかなと思っています。

年末の31日まで砂利を敷いたり遊歩道を作ったり、室内クリーニングをしたり、食器類や鍋釜を運び込んだりして(その後、正式引き渡しの前に、全て再び片付け、空っぽにしましたが)、年末年始は、ここで過ごしました。皆、キャンプなどでスキーに行きましたが、青ちゃんは、怪我のため一人でいることが多かったですが。

私が、年末工事を急いだのには、こんな思いがありました。2年前の元旦に、ご存じのように失火でミズザクラの建物が全焼しましたが、翌1月2日が、前日の火災の悲しみ、落ち込みよりも、感謝とありがたみのある記念日として大きく私たちにこの日が存在しているからです。

元旦の燃え上がる建物を見ながら、母親が泣き崩れ、子ども達4人はてきぱきと消火活動をし、私達夫婦は、まるで夢であることを確かめるように、その現実を受け止められないまま、茫然としていました。たぶん、人生で初めての体験でしたが、負けず嫌いの弱音を吐かない性格なので、涙を流さず、必ず再建すると周囲に力強く言っている自分がいました。(でもさすがに、これ以降3ヵ月、血圧は200を超えていましたが)その後の対応、文庫再開への過程は、ここでは割愛しますが。

無残になった焼け跡はみじめそのものです。自分がみじめになる以上に、子ども達の聖地である場所だけに一刻も早く片付けなくてはと思い、事情聴取などの段取りを聞いて少しでも早く片付けに取りかかれねばと、頭の中でその手順、重機の活用などを考えていました。でも片付け開始は、現場検証の終わる翌2日の午前10時頃だという事です。元旦の夜9時頃、焼け跡で鎮火状況を確認しながら明日の段取りを考えていると、ふと横に人の影。長男の高校時代の野球部の子どもとその親でした。「何かお手伝いできることがあったら?」「明日から片付けです」

翌朝、その親がチェーンソーを持って来てくれ、一人の中学時代の同級生が重機の運転で手伝いに来てくれました。そして、驚くことに、野球部時代の1年生から3年生の部員たちが続々と来てくれ、ドロドロになりながら片付けを始めてくれました。今、思い出すだけでも涙が溢れてきます。火災の悲しみや落胆は吹き飛び、本当にうれしく、大きな励ましとなりました。片付けが終わり、その夕方、子どもたちが帰る時「ようやく、高校時代の恩返しができました」「前向きな姿勢に感動しました」「新しい建物ができるときは、ぜひ呼んでください」などと言い残し「ありがとうございました」と帰っていきました。この時、新しい建物ができた時は、この子たちを一番に招待しようと思いを決しました。

それが1月2日です。だから、この日までに、何が何でも完成させねばなりません。そして、今年の2日。中学の同級生と野球部の子ども達、そしてその父親が、来てくださいました。皆、スロープでそり遊びをして遊んだ後、建物で宴会を始めました。大地のOBもいるし、長男の中学時代の同級生もいるし、野球部の時に差し入れやごちそうした大地の焼き豚をたっぷり食べてもらったり。でも、話題のほとんどは野球の事ばかりでした。火災の事や建物の事などはほとんど話題にしませんでした。それは、この建物にその時のメンバーがいるだけで十分でしたから。

この方 この子たちのお蔭で、この建物ができたことは言うまでもありません。敷地の下、地面の下に大きな思いの礎として残っているからです。だから、2年前にドロドロの姿で、火災の落ち込みを感じさせず、まるで文化祭のような笑顔で写っている写真は、最初に、この建物に飾られました。そして、これからも飾られ続けるでしょう。

「みずぐるま」 玄関の門柱は、新潟県にあった水車小屋の水車の軸です。多くの人が廻り廻って来てほしい、そんな思いから命名しました。更に、前のミズザクラの建物とゴロがあります。その看板には、火災で焼けたログハウスの文庫「わすれな草」と「上溝桜」と「フジの花」の絵が描かれています。この地にあった様々の思いや存在を忘れないためです。

まもなく、本の移動が始まり、ようやく、文庫がみずぐるままで開館します。これで一段、私の気持ちの整理ができそうです。

「言葉よりも行動」これを大きな支え 感謝 教訓にして